

## 研究教育業績（2014-2018 年度）

### I. 研究業績

#### 1. 主な発表論文

[原著論文]

- 1) Ogasawara A., Kato N., Torimoto N., Aohara F., Ohashi R., Yamada Y., Taniguchi H., Cytochrome P450 1A2 Messenger RNA is a More Reliable Marker than Cytochrome P450 1A2 Activity, Phenacetin O-Deethylation, for Assessment of Induction Potential of Drug-Metabolizing Enzymes Using HepaRG Cells. *Drug Metab Lett.*, 12(1), 14-23 (2018)
- 2) Gailhouste L., Liew LC., Yasukawa K., Hagiwara K., Iwazaki N., Yamada Y., Hatada I., Ochiya T., Epigenetic Reprogramming of Human Hepatoma Cells: A Low-Cost Option for Drug Metabolism Assessment, *Cell Mol Gastroenterol Hepatol.*, 22, 454-457 (2018)
- 3) Ogasawara A., Torimoto N., Tsuda N., Aohara F., Ohashi R., Yamada Y., Taniguchi H., New screening criteria setting on evaluation of cytochrome P450 induction using HepaRG cells with multiplex branched DNA technologies in early drug discovery, *Drug Metab Lett.*, 10, 152-160 (2016)
- 4) Kozakai K., Yamada Y., Oshikata M., Kawase T., Suzuki E., Haramaki Y., Taniguchi H., Cocktail-Substrate Approach-Based High-Throughput Assay for Evaluation of Direct and Time-Dependent Inhibition of Multiple Cytochrome P450 Isoforms, *Drug Metab Pharmacokinet.*, 29, 198-207 (2014)

[その他]

- 1) 山田泰弘, 総説:薬物動態研究に必要とされるヒト肝細胞の特性プロファイル, *Cosmo Bio News*, 147, 1-2 (2018)
- 2) 山田泰弘, 新薬創生から薬剤師育成へ, *埼玉県薬剤師会雑誌*, 41, 18 (2015)

#### 2. 主な学会発表

[国際学会]

一般発表

- 1) Iwazaki N., Yamada Y., Gailhouste L., Ochiya T., Induction of Drug-metabolizing Enzymes on Epigenetic Reprograming in HepG2 Cells by Exposure with 5-Azacytidine., 20<sup>th</sup> North American ISSX meeting in Florida, USA, 2015

[国内学会]

シンポジウム

- 1) 勝田毅, 松田潤太郎, 山口智子, 山田泰弘, 保坂和徳, 竹内敦子, 斎藤義正, 落谷孝広, ヒト成熟肝細胞由来肝前駆細胞 (CLiP) の開発と再生医療への応用可能性, 第18回日本再生医療学会総会, 3月, 神戸 (2019)
- 2) 山田泰弘, 創薬薬物動態研究で必要とされる肝細胞の新規培養法の必要性. 細胞アッセイ研究会第三回討論会, 東京, 2015
- 3) 山田泰弘, 創薬薬物動態試験に活用するための凍結ヒト肝細胞の新規培養法の紹介と活用. 日本動物実験代替法学会 第27回大会, 横浜, 2014

- 4) 山田泰弘, 凍結ヒト肝細胞を創薬薬物動態試験に活用するための新規培養法の構築と応用. 第 21 回 HAB 研究機構学術年会, 東京, 2014  
一般発表
- 1) 高田麻衣花, 山田泰弘, 竹内敦子, LC-MS/MS 法を用いた肝細胞中主要 CYP 分子種誘導能評価, 日本薬学会第 139 年会, 千葉 (2019)
- 2) Yamada Y., Ogasawara A., New screening criteria setting on evaluation of cytochrome P450 induction using HepaRG cells with multiplex branched DNA technologies in early drug discovery. 日本薬物動態学会第 32 回年会, 東京, 2017
- 3) Ogasawara A., Yamada Y., CYP1A2 Messenger RNA is More Reliable Marker than CYP1A2 Activity, Phenacetin O-Deethylation, for Assessment of Induction Potential of Drug-Metabolizing Enzymes Using HepaRG Cells. 日本薬物動態学会第32回年会, 東京, 2017
- 4) 山田泰弘, 創薬薬物動態研究に求められる肝細胞の特性と特性維持のための培養法. 富士フィルム株式会社・再生医療研究所セミナー, 2016
- 5) 山田泰弘, 創薬薬物動態研究に必要とされる肝細胞の特性と培養法, 第 3 回次世代バイオ・医療技術研究会、東京, 2016

### 3. その他特筆すべき研究業績

#### [研究費獲得]

- 1) 山田泰弘 (分担), 国立研究開発法人日本医療研究開発機構, 創薬基盤推進研究事業 (課題番号 17bk0104075j0001), ヒト iPS 細胞由来肝細胞を用いた医薬品の肝毒性を予測・評価する *in vitro* 試験法の開発研究 (2017-2021)
- 2) 山田泰弘 (分担), 国立研究開発法人日本医療研究開発機構, 創薬基盤推進研究事業 (課題番号 17ak0101073j001), 革新的医薬品等開発のための次世代安全性評価法の開発・標準化と基盤データ取得 (2017-2021)
- 3) 山田泰弘 (代表), 平成 30 年度日本薬科大学学術研究助成金, 創薬研究に資する高い薬物代謝酵素機能を発現したヒト代替肝細胞の培養系構築 (2018)
- 4) 山田泰弘, コスモ・バイオ株式会社との共同研究費, 薬物代謝酵素活性誘導型肝癌細胞株(HepG2、Huh-7)の薬物代謝酵素活性評価 (2018)
- 5) 山田泰弘 (代表), 平成 29 年度日本薬科大学学術研究助成金, 肝癌由来細胞株のエピゲノム処理による薬物代謝酵素の高発現と創薬研究への活用 (2017)
- 6) 山田泰弘, 国立がん研究センター研究所・落谷孝広博士の研究チームとの共同研究費, ヒト肝細胞からのダイレクトリプログラミングによる CLiP 細胞の薬物代謝機能評価 (2017)
- 7) 山田泰弘 (代表), 平成 28 年度日本薬科大学学術研究助成金, トランスレーショナルリサーチ動物としてのマイクロミニブタの薬物代謝機能評価 (2016)
- 8) 山田泰弘 (分担), 国立研究開発法人日本医療研究開発機構, 創薬基盤推進研究事業 (課題番号 15ak0101029h1702), 医薬品・医療機器の実用化促進のための評価技術手法の戦略的開発 (2015-2016)

## II. 教育業績

### 1. 担当授業科目

2018 年度

- 1) 卒業研究
- 2) 薬学総合演習 II (6年前期) : 3 コマ
- 3) 薬物動態・製剤実習 (4年前期)
- 4) 薬学原書講読 II (4年後期)
- 5) 実務実習プレ教育 (4年後期) : 4 コマ
- 6) 薬物体内動態 (3年前期)
- 7) くすりの生体内運命 (3年前期)
- 8) 薬学総合演習 IB (4年後期) : 4 コマ
- 9) 医療にかかわる生と死の問題 (1年後期)
- 10) 薬学体験学習 (1年前期)

#### 2017年度

- 1) 卒業研究
- 2) 薬学総合演習 II (6年前期) : 3 コマ
- 3) 総合薬学勉強会 (5年) : 6 コマ
- 4) 薬剤系実習 (4年前期)
- 5) 実務実習プレ教育 (4年前期) : 4 コマ
- 6) 薬学総合演習 IB (4年後期) : 4 コマ
- 7) 薬物体内動態 (3年前期)
- 8) くすりの生体内運命 (3年前期)
- 9) 薬学体験学習 (1年前期)

#### 2016年度

- 8) くすりの生体内運命 (3年前期)
- 9) 薬物代謝安全性学 (3年後期)
- 10) 生物薬剤学 II (3年後期)
- 4) 薬剤系実習 (4年前期)
- 1) 卒業研究
- 2) 薬学総合演習 II (6年前期) : 5 コマ
- 3) 総合薬学勉強会 (5年) : 6 コマ
- 4) 薬剤系実習 (4年前期)
- 5) 薬学総合演習 IA (4年前期) : 2 コマ
- 6) 実務実習プレ教育 (4年前期) : 1 コマ
- 7) 薬学総合演習 IB (4年後期) : 1 コマ
- 8) くすりの生体内運命 (3年前期)
- 9) 薬物代謝安全性学 (3年後期)
- 10) 生物薬剤学 II (3年後期)
- 11) 信頼関係の構築 (2年前期) : 2 コマ
- 12) 薬学体験学習 (1年前期)
- 13) 薬剤師の使命 (1年前期) : 1 コマ
- 14) 再生医学 (3年後前期) : 1 コマ (横浜市立大学の客員教授として医学部での講義)

#### 2015年度

- 1) 薬学総合演習 II (6年後期) : 2 コマ

- 2) 薬学総合勉強会（5年）：6 コマ
- 3) 薬剤系実習（4年前期）
- 4) 実務実習プレ教育（4年前期）：3 コマ
- 5) 薬学総合演習 IB（4年後期）：2 コマ
- 6) くすりの生体内運命（3年前期）
- 7) 薬物代謝安全性学（3年後期）
- 8) 薬学総合実習 P B L（2年後期）：13 コマ
- 9) 薬剤師の使命（1年前期）：2 コマ
- 10) 再生医学（3年後期）：1 コマ（横浜市立大学の客員教授として医学部での講義）

#### 2014年度

- 1) 化学物質の生体への影響（3年後期）：1 コマ（昭和大学薬学部の客員教授として講義）
- 2) 再生医学（4年後期）：1 コマ（横浜市立大学の客員教授として医学部での講義）

#### 2. その他特筆すべき教育業績

- 1) 昭和大学薬理科学研究センターセミナー、薬物動態研究に資する代替ヒト肝細胞の薬物代謝機能評価、昭和大学（2018年10月30日）
- 2) 研究生の受け入れ（2017年9月1日～2018年3月31日）：薬物動態学およびLC-MS/MSによる薬物濃度測定